



海を渡る交流

龍郷町と菊池市は、昔から交流があったわけではありません。交流が始まったのは、平成17年に菊池市が合併した後で、交流が始まってわずかな時間しか経過していないのです。
海を隔てた2つのまちをつなげたのは、一人の人物でした。

龍 郷町と菊池市をつなげた人物。それは明治維新や西南の役で有名な西郷隆盛公です。彼の祖先は、菊池市七城町の西郷地区が発祥であり、南北朝時代に名を馳せた菊池一族の末裔です。西郷家は、菊池氏初代則隆公の子である政隆が、七城町西郷地区に増永城を築き、居住したことによって始まります。そのため西郷地区には、「西郷南洲先生祖先発祥の地」（徳富蘇峰書）の記念碑が建立されています。

菊池市とつながりのある西郷が、なぜ龍郷町と菊池市をつなげる人物なのか。それは彼が後世まで語り継がれる活躍をする少し前までさかのぼることになります。安政の大獄で、勤皇僧である月照とともに、鹿児島島の錦江湾に身を投じた彼は奇跡的に生き延びました。その後、鹿児島島の島津藩27代斉興の計らいで幕府に対して死亡したと報告され、奄美大島の龍郷町に潜伏することを命じられました。そこで西郷は、「吾の源は菊池にあり」として「菊池源吾」と名前を変えたのです。

大島の名門郷士格龍家の離れに居住し、初めこそ周りに馴染めずにいた西郷ですが、少しずつ島民と打ち解けていきます。そして龍家の子孫である愛加那（本名：龍 愛子）と結婚しました。龍郷町で暮らす2人の間には長男の菊次郎、長女の菊草（後に菊子）が生まれ、いずれも名前に「菊」の字をつけるなど菊池とのつながりがみえます。

菊 池源吾の名を知っている人は多くありません。西郷が龍郷町で暮らしたのはわずか3年余りと短く、彼が「菊池源吾」と名乗っていたのも龍郷町にいた時だけ。それ以降に「菊池源吾」と名乗ることはなかったためです。

しかし、明治10年の西南の役など、幕末から明治にかけての活躍は、多くの国民が知るところであり、日本の歴史を大きく動かすものでした。

あまり表に出ていない「菊池源吾」として生きた期間。だからこそ「菊池源吾」にゆかりのある地域同士、何か交流ができないものかと行政と市民が動き出しました。

お互いのまちを訪れ、「菊池源吾」の人間性や生き方、人生を学ぶとともに、菊池市との歴史的関わりについても学んでもらおうと、平成19年2月に、初めて菊池市で菊池源吾を語るシンポジウムが開かれました。菊池内外からたくさんの方が訪れ、龍郷町と菊池市とのつながりを知るきっかけとなったのです。

シンポジウムが終わってからも、勉強会や講演会などを通じて、ともに菊池源吾にゆかりの深い土地として、「何かできないものか」と考える市民の手で、西郷がつなげた縁を受け継ぎ、自分たちの縁としていったのです。それから3年、「菊池源吾」としての西郷を通じて、龍郷町と菊池市はさらに強い絆を深めていきます。

鹿児島県大島郡龍郷町

鹿児島本島と沖縄の間にある奄美大島の北部にあり、大自然に囲まれたまち。

面積 82.07km

人口 6,275人

菊池市からの交通アクセス

益城熊本I. C

～溝辺鹿児島空港I. C

鹿児島空港～奄美空港



特集

菊池市から遥かに離れた海の先、鹿児島本島と沖縄県の間にある奄美大島。その北部に位置するまちをご存知でしょうか。まちの名は「龍郷町」。

海を渡ったこのまちと菊池市は、“人”という縁でつながっていました。

